

深川市は北海道のほぼ真ん中



「深川市」の脱炭素化に向けたこれまでの進め

これまでの進め

年度	月日	内容
R4	R5.3.2	ゼロカーボンシティ宣言
R5	R5.10.10	空知管内初！ ZEB Ready認証取得の庁舎開庁
	R6.3月	地球温暖化対策実行計画（事務事業編）策定
R6	R7.3月	市公共施設のLED化100%達成 ※時期について建築係に確認中

現在以降の計画（予定）

年度	月日	内容
R7	R8.3月	再生可能エネルギー導入ビジョン策定
R8	R9.3月	地球温暖化対策実行計画（区域施策編）策定

「深川市」の課題

自然的特性

- ・^{2025.3末}高齢化率が45%と高く、災害時に迅速な避難が困難な世帯が多い
- ・平坦な土地柄で太陽光のポテンシャルは高いが、日照時間が北海道Ave.より約100時間短い

社会的特性

- ・人口減少(^{2025.3末}18,009人 → ^{2050年}9,878人)、高齢化率が上昇(^{2025.3末}45% → ^{2050年}50%) することが推計される
- ・路線バスの廃線や減便、鉄道路線の廃線など公共交通が衰退している
- ・廃棄物の減量、適正な資源化が求められる

経済的特性

- ・市産業全体において就業者数が減少(^{2010年}10,720人 → ^{2020年}9,081人)
- ・基幹産業の農業では、農業所得の減少や担い手不足が生じている
- ・市の財政的余力も限られている

脱炭素的特性

- ・「何から始めるべきか」、「どのような指針を持つべきか」が明確ではない

「深川市」の課題（分野別）

地域課題	内容
地域エネルギーの脱炭素化	・再エネ導入ポテンシャルのうち、0.1%以下しか再エネ設備等を導入しておらず、電力の脱炭素化を実現する余地が十分にあるほか、Jクレジット活用による収益化の可能性も探りたい ・農業用水路や河川の落差を活用した小水力発電について可能性を探りたい
公共交通の利便性低下	・「利用者数の減」→「ダイヤの減・廃線」→「利便性の低下」と負のスパイラルから抜け出せない ・資金不足等により車両の更新ができない ・担い手の高齢化に伴う担い不足 ・留萌本線の廃線
地域資源の未活用	・全国一の処理能力がある穀物乾燥調製貯蔵施設を有しており、大量のもみ殻が排出される ・未利用のもみ殻を地域内エネルギーとして余さず活用したい
資源循環・廃棄物の減量推進	・生ごみ処理施設の老朽化等により、エネルギー転換に支障をきたす ・一般廃棄物最終処分場の残余容量や維持管理に係る課題 ・ごみ収集事業者のなり手不足

参加企業様に求めること

情報提供／壁打ちマッチング

▶ 伴走支援を期待しています

- ・地域活性化起業人や企業版ふるさと納税人材派遣型等の活用

▶ 特にマッチングを希望する分野 ※庁内全体で精査中

- ・廃棄物の利活用 （施設の老朽化やリサイクル率の目標未達）
- ・Jクレジットの活用 （新たな自主財源確保、及び地元産業への還元）

カーボンニュートラルの達成は重要課題ではあるものの、
本市は、これに資する取り組みを契機としてまちの課題解決と魅力向上を最大目標としています。